



CHUI ベースの管理ルー チン

Version 5.1
2006-03-14

CHUI ベースの管理ルーチン

Caché Version 5.1 2006-03-14

Copyright © 2006 InterSystems Corporation.

All rights reserved.

このドキュメントは、Sun Microsystems、RenderX Inc.、アドビ システムズ および ワールドワイド・ウェブ・コンソーシアム (www.w3c.org) のツールと情報を使用して、Adobe Portable Document Format (PDF) で作成およびフォーマットされました。主要ドキュメント開発ツールは、InterSystemsが構築したCaché と Javaを使用した特別目的のXML処理アプリケーションです。



Caché 製品とロゴは InterSystems Corporation の登録商標です。



Ensemble 製品とロゴは InterSystems Corporation の登録商標です。



InterSystems という名前とロゴは InterSystems Corporation の登録商標です

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼動および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

Caché および InterSystems Caché、Caché SQL、Caché ObjectScript および Caché Object は、インターシステムズ社の商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems ワールドワイド カスタマサポート

Tel: +1 617 621-0700

Fax: +1 617 374-9391

Email: support@InterSystems.com

目次

CHUI ベースの管理ルーチン	1
1 ^SECURITY	2
2 ^DATABASE	3
3 ^SHADOW	4
4 ^%AUDIT	5

CHUI ベースの管理ルーチン

概要

Caché インストールの管理方法として優先的に推奨されるのは、システム管理ポータルです。このポータルによって、システム制御に使用する便利なブラウザ・ベースのインタフェースが提供されます。しかし、この方法ではシステムを管理できない状況に対応するために、Caché には、より簡略化されたインタフェースを介して同種の目的を共同で実現できる CHUI ベースのルーチンがいくつか用意されています。

これらの各ルーチンについては、それぞれのセクションでその最上位レベルの機能とともに説明されています。ほとんどの場合、初期メニューを選択すると、ルーチンのタスク実行に必要な情報がすべて指定されるまで、必要な情報の入力が求められます。Caché ターミナルからこれらのルーチンを使用するには、ユーザは %SYS ネームスペースにあることと、最低でも %Manager ロールを持つことが必要です。例えば、^SECURITY ルーチンは、次のコマンドで呼び出されます。

```
DO ^SECURITY
```

ルーチンが実行されると、そのオプションのリストが表示されます。目的のオプションを選択するには、“Option?” プロンプトの後に対応する番号を入力します。

プロンプトに関する一般的な注意事項

- 各オプションには、数字の接頭語があります。その番号を入力することで、オプションを選択します。オプション番号の形式は、すべてのルーチンで使用されています。
- すべてのオプション・リストに、メニューの現行レベルを終了して前のレベルに戻るための項目があります。または、“Option?” プロンプトに対して **Enter** キーを押して対応することもできます。この操作は [終了] オプションを選択したと同義に解釈されます。つまり、現行のセクションが終了され、1 つ “上位” レベルのオプションが表示されます。最上位レベルのオプションに対して **Enter** を押すと、^SECURITY ルーチンが終了します。
- 情報の入力を求めるプロンプトの多くには既定値があり、それは **Enter** キーを押すことで選択できます。使用可能な既定値がある場合は、次に示すように、プロンプト・メッセージと “=>” 文字の間に表示されます。

```
Unsuccessful login attempts before locking user? 5 =>
```

この例では、既定値は 5 で、これはユーザが何回ログインに失敗するとそのユーザ名がロックされるかを表しています。

- 既定値が “Yes” または “No” のプロンプトでは、“yE” や “n” などの部分的に一致する応答も受け入れられます。この照合では、応答の大文字/小文字が無視されます。

- ・ 既存のユーザ、ロール、サービスなどの設定変更が目的のオプションでは、それらの項目の既存値が既定として表示されます。**Enter** を押すと、その値が保存され、次のプロンプトに進みます。
- ・ 一部のプロンプトでは、ユーザ名などの項目を照合するときに使用するパターンの入力が求められます。通常、既定のパターンは、すべての項目に一致する“*”です。このパターンでは、DOS における照合と同じように、アスタリスクが任意の文字シーケンスに一致します。パターンは、それぞれが固有のパターンとして解釈されるコンマ区切りのパターン・リストで構成することもできます。対象の項目がリスト内のいずれかのパターンに一致すると、その項目は選択されたものとして処理されます。

警告! 最初の説明にあるように、Caché システムの管理方法として好ましいのは、システム管理ポータルです。このドキュメントに説明されているルーチンを使用する場合は、管理者に Caché の動作と、選択するオプションに最適なパラメータ値についての十分な運用知識があることが前提となります。

注意: 同じルーチンの複数のインスタンスが、異なるシステム管理者 (あるいは同じ管理者) によって同時に実行されるのを防止する方法はありません。こうした状況になった場合は、影響を受けるデータの一貫性に考慮し、各インスタンスの動作を調整して競合を回避して、目的を達成するのは管理者の責任となります。

1 ^SECURITY

このルーチンは、Caché セキュリティが適切に機能するのに必須のデータの設定とメンテナンスを実行します。初期メニューには次のものがあります。

1. ユーザの設定

システムへのアクセスを許可するユーザの識別情報を定義します。

2. ロールの設定

Caché ユーザは、1 つまたは複数のロールが割り当てられることで、アクションを実行する権限が与えられます。このセクションでは、ロールの特性を定義します。

3. リソースの設定

リソースとは、データベースやアプリケーションなどの、使用が管理対象となる資産を意味します。リソースは 1 つのデータベースのように単一の場合もあれば、1 組のアプリケーションのように複数 (通常は関連するもの) で構成される場合もあります。

4. サービスの設定

サービスは、各種接続技術を使用して Caché に接続する機能を制御します。サービスはインターシステムズによって事前に定義されています。このオプションによって、サービスの使用方法を制御するパラメータを設定します。

5. ドメインの設定

ドメインは、ユーザ・コミュニティの複数グループへの分割を可能にします。管理者は、このオプションによって、Caché セキュリティを設定し、複数のドメインからユーザを受け入れることができます。このオプションによって定義されたドメインは、有効なユーザを認識する目的で Caché システム内にも存在します。複数のドメインを定義する場合は、`president@whitehouse.gov` のように、ユーザ名にアクセス元となるドメインを含める必要があります。ドメインの識別情報を含めずにユーザ名を指定すると、システム・パラメータのセクションで設定された既定ドメインが使用されます（設定されている場合）。

6. アプリケーションの設定

アプリケーション定義は、実際のアプリケーション・コードに対するプロキシとして機能します。特定の定義に対する許可は、セキュリティ・システムによって、その定義に関連するアプリケーションに対して同じ許可を与えるものと解釈されます。

7. 監査イベントの設定

このセクションでは、監査ログにその発生を記録するイベントを定義および管理します。

8. システム・パラメータの設定

システム・パラメータは、システム全体に適用されるセキュリティ関連の値の集合です。

9. 終了

2 ^DATABASE

^DATABASE ルーチンはデータベースの管理に使用します。さらには、Caché の高度なセキュリティに関連する値を設定できます。

1. データベースの作成

このセクションでは、新しいデータベースを作成できます。

2. データベースの編集

管理者は、このオプションを使用して、ボリュームを追加するなど、既存データベースの属性を変更できます。

3. データベースの一覧表示

このオプションを使用して、1 つまたは複数のデータベースの属性を表示できます。

4. データベースの削除

管理者は、このセクションによって Caché データベースを削除できます。この操作は元に戻せません。

5. データベースのマウント

データベースを使用可能にするには、Caché に対してデータベースをマウントする必要があります。データベースは、起動時に自動的にマウントされるように設定できます。このオプションは、データベースの Caché での使用を手動で有効化します。

6. データベースのマウント解除

管理者は、このオプションによって、データベースを停止して、Caché での使用を解除できます。

7. データベースの圧縮

このオプションによって、大量のデータが削除されたデータベースがより少量の物理ディスクを使用するように構成できます。

8. データベースの空き容量の表示

このオプションは、データベースの使用可能な空き容量を表示します。このオプションでは、データベースの現行のコンテンツと宣言サイズの差異が計算されます。

9. データベースの詳細の表示

このオプションは、場所、サイズ、ステータスなどの管理パラメータを含む、指定されたデータベースの詳細情報を表示します。

10. データベースの再作成

提供予定。

11. データベース暗号化の管理

このオプションを使用すると、データベースのプロパティは再利用に備えて保持しながら、すべての論理データをデータベースから削除できます。

3 ^SHADOW

管理者は、このルーチンを使用して、別の Caché インスタンスのシャドウ・システムとして機能する Caché インスタンスを定義および管理できます。

1. シャドウの作成

このシステムのシャドウ・サーバとして機能する別システムを識別するのに必要なパラメータを指定します。

2. シャドウの編集

既存のシャドウに関連付けられているパラメータを変更します。

3. シャドウとそのプロパティの一覧表示

シャドウ・サーバとして定義されているシステムとそのプロパティを一覧表示します。

4. シャドウとその動作スタツツの一覧表示

シャドウ・サーバとして定義されているシステムとそのパフォーマンス情報を一覧表示します。

5. シャドウの開始

定義済みのサーバでシャドウイングを開始します。

6. シャドウの停止

シャドウイング動作を停止します。

7. シャドウの一時停止

シャドウ・サーバへのデータの転送を一時停止します。

8. シャドウの再開

一時停止中のサーバでシャドウイング動作を再開します。

9. シャドウの削除

現行システムの定義済みシャドウ・サーバ・リストからシステムを削除します。

10. シャドウの詳細の表示

特定のシャドウ・サーバに関するすべての情報を表示します。

4 ^%AUDIT

このルーチンでは、ログにあるデータのレポート処理に加えて、監査ログのエントリとログ自体の操作を実行できます。

1. 監査レポート

選択条件（日付範囲、イベント、対象ユーザなど）を指定して、それらの特性を表示できます。また、監査ログからデータを抽出し、フォーマット処理して表示できます。

2. 監査ログの管理

他のネームスペースへのログ・エントリの抽出、監査ログ・データの外部ファイルに対するエクスポートとインポート、および監査ログ自体の保守作業を実行できます。

3. 終了

